

紙議員・参院農林水産委員会でTPP交渉について質問 「必要のない妥協はない」(安倍首相)と言いながら、農産物の聖域を崩し、譲歩案だけを出す交渉から撤退すべき

日本共産党の紙智子議員は、14日の参院農林水産委員会で、食料・農業・農村基本計画について質問し、政府が飼料米を戦略作物に位置づけ、2025年度に110万トンにする増産目標を設定していることについて、生産者の意欲を高めることが重要で、助成金支給の維持、増額を実施するよう求めました。

また、その基本計画の実行にともなう、強い圧力となるTPPで、農林水産委員会の決議での聖域を守らず、崩しながら譲歩案だけを出すような交渉からの撤退を要求しました。

紙智子議員は、食料自給率向上との関係で前回、麦、大豆の問題をとりあげたのに続き、飼料用米について質問しました。

紙議員は、飼料用米の増産が水田、農地を生かして国内生産を多面的に発展させ、食料自給率向上をする上でも重要であると捉える日本共産党の立場を明らかにしたうえで、飼料用米の生産努力目標の11万トンから110万トンにしようとする政府の計画は、10倍伸ばすものであり、「ポイントは、やはり生産者の意欲になるかどうかだと思う」と指摘しました。

その上で、飼料米60キロ当たりが生産費が1万6千円で、農家手取りが13円、助成金が9057円と助成金があっても生産費に届かない現状を示しました。「これで本当に生産意欲になるのか、大臣に伺います。」と答弁を求めました。林国務大臣は、「なるべく主食用米との所得差が生じないようにする、これを基本として政策支援を行っていくということ」と答弁しました。

紙議員は、財政制度分科会や農政審議会食料部会で助成金制度の見直しや削減の議論があることを指摘し、「大臣の、助成金は削減しないという、生産者を励まし安心できる、そういうメッセージが要るのではないかと思う」と求めました。これについて、林国務大臣は、「私もそういうことを申し上げていますし、財務大臣も入っ



質問する紙智子議員 14日
参議院農林水産委員会

て政府全体として閣議決定しているの、生産者のみなさんが安心して生産にとりくむことができないように、周知徹底を図っていききたいと思っています。」と答弁しています。

続いて紙議員は、基本計画を執行する上でTPPが非常に強い圧力になるとして、8日の参院予算委員会で、「日米会談で安易な妥協はしない」と求めたことに安倍首相が「必要のない妥協は当然ない」と答える一方で、日本が牛肉・豚肉の関税引き下げ、米の輸入など譲歩案を示したとの報道があることを指摘しました。

紙議員は、「日米首脳会談で、農産物の分野では日本が示した譲歩案で大筋合意して、あとはTPA(アメリカ)待ちにするのではないかというふうに思いますけれども、いかがですか。」とたどしましたが、政府は否定も肯定もしないと言う態度をとりました。さらに、米通商代表部がTPPに関する情報の閲覧条件の緩和を打ち出す一方で、日本ではほとんど情報開示されていない問題を指摘し、「政府は秘密保持の運用はさまざまいいながら、悩んでいるというポーズをとっている」と批判しました。

米通商代表部(USTR) 3月18日のコメント 「すべての国会議員は全文テキストを閲覧可能」と記載(仮訳)

- 「国民の代表である国会と協力していく」
- 全ての国会議員に、議会内で都合のよい時に、しかるべきアクセス権限を持つ議員スタッフとともに閲覧することを含め、全交渉テキストへのアクセスを提供する。
 - TPPに関して議会ブリーフィングを1,700回近く実施しており、T-TIP、TPA、AGOAその他の取り組みについてはそれ以上行っている。
 - 国会議員に対し、交渉テキストを読み進めることを支援するよう、TPP各章の平易な言葉による要約を提供する。
 - 米国の提案について、それを交渉に持ち出す前に、議会委員会(複数)とともに事前に閲覧する。
 - 交渉状況について議会委員会(複数)に最新情報を知らせ、交渉のすべての段階でフィードバック(委員会の評価)を得るよう、議会と協力する。

出所：米通商代表部(USTR) ウェブサイト (<https://ustr.gov/>) より紙智子事務所作成

出所：米通商代表部(USTR) ウェブサイト (<https://ustr.gov/>) より紙智子事務所作成、
2015年4月8日 参議院予算委員会提出資料 日本共産党 紙智子

飼料米増産の基本計画を達成するのにふさわしく、助成金支給水準の維持・増額を —— 基本計画実行の圧力となる TPP から撤退すべき